

SA 吹田 通信 第9号

2004年2月

発行 SA 吹田 事務局 〒565-0821 吹田市山田東4-41-4-506

TEL&FAX 06-6876-1437

★★SA 吹田支部休止後の再発足について★★

木田 隆三(SA6期) 後藤 新市(SA6期)

高増 文弥(SA10期) (原稿担当)

SA 世代間交流 6 期生は木田隆三氏を中心に「遊 SA6」を立ち上げ、伝承玩具をもとに廃物利用によるリサイクルおもちゃ作り等の指導を楽しみながら 12 年が経過、仲間も高齢化と病気等により「遊 SA6」も後輩の方に継承しました。中でも吹田市立藤白台小学校「チャレンジタイム 2000」発足にあたり南利和校長先生から(財)千里リサイクルプラザ事務局へ「手作りおもちゃ指導の要請」がありましたと紹介され出向き、同じく 2001 年も新任の前田都校長先生からもご依頼があり継続しておもちゃ指導を実施してきましたが、地域 SA の方々にもご協力頂く意味で、SA14 期奥正昭氏らのグループをお願いをし、結果引き継いで頂くようなことになりました。このことは「SA 吹田通信第 2 号」で報告の通りです。更に SA14 期橋ユミ子さんの報告のとおり「チャレンジタイム 2003」に参加され、子ども達の感想文を読むほどに、あらためて感謝の気持ちで一杯です。

吹田 SA の皆さんに協力して頂きましたこと本当に有り難うございました。

続いて(財)千里リサイクルプラザ研究所市民研究員としての活動について報告します。

(財)千里リサイクルプラザ研究所市民研究員制度は平成 4 年(1992 年)10 月発足し

現在次のような研究会があります。

- | | |
|-----------------|----------------|
| ① イベントと環境情報研究会 | ② イベントとごみゼロ研究会 |
| ③ 環境にいいお店を探す研究会 | ④ 最適システム研究会 |
| ⑤ 社会的ルール研究会 | |

指導者として、各大学(阪大、関大など)より数名の教授クラスの諸先生が研究員として出向され、全くのボランティアで地球環境維持強化の為、また海外のごみ事情の研究、あるいは地域市民のごみ減量循環型社会形成を軸に研究されています。

廃棄物焼却場(発電装置付)北工場、破碎選別工場 リサイクルセンター(資源再生)、ガラス工場、木工場、布工場、自転車再生工房などは、万博外周道路の一隅にあり日本で唯一のどなたでも来て見て利用いただける施設です。行政関係者や関連事業者は、全国津々浦々からこられるようです。また、小中学校の環境学習発表会もあり行政との掛け橋となって大いに啓蒙活動の一翼をになっています。大型量販店等の資源回収ボックスは、最近とみに活用されている良い実例です。

環境川柳カルタは、全国から応募して頂いた環境川柳約 600 句から選句して、手作りカルタは大型判 33cm x 54cm、小型判 7cm x 10cm が作成され、吹田市内各公民館や小学校等でごみ減量やリサイクルの啓蒙に役立っています。

(財)千里リサイクルプラザ研究所の福井俊介新所長は、地域の方々に情報発信環境プロジェクトとして、環境講座、環境ビデオ等出前講座を公民館や学校、自治会の方々に積極的に推進広報されておられます。リサイクル手作りおもちゃやカルタ大会も大いに協力していただきたいとの要望もあり、SA 吹田の皆さんも、吹田市に生活する以上、ごみ問題を避けて通ることはできません。どうか市民研究員の応募を考えていただき奮って申し込みされることを希望します。

下記のおもちゃ作りの会がありますのでご参加下さい。
3月14日(日)「くるくるセール」千里リサイクルプラザで、午前10時から
3月28日(日)北千里公民館で午前10時から。

300-4-111-1 東田山市田丸 1280-2827 田丸AS行機
784

点 訳 と 私

中井 史朗(SA13期)

私は、殆ど毎日点訳作業をしています。何から、書こうかと思案しましたが、思いつまままに、とりとめもなく、お話しすることにいたしました。

点字とのふれあいは、「さあ、ボランティア奉仕をしよう」などと意気込んで始めたわけではありません。妻が、吹田の母子会の点訳グループに所属して、もうかれこれ20年にもなりましょうか。私がまだ会社勤めをしていた頃は(10年以上前)、妻の作業を横目に見ていただけで、時々読み合わせ校正の手伝いをする程度でした。会社をリタイアしてから、私を待っていたのは、妻の点訳作業に参加することでした。日本ライトハウスの盲人情報文化センターでの6ヶ月の講習期間を経て、メンバーの一員となったのは平成9年の3月でした。パソコンによる点訳奉仕は、私の日課となりました。大阪肥後橋の袂にある「盲人情報文化センター」を一度訪れてください。右も左も、見るからに賢そうな(実は、本当に賢いのですが)女性の方々が、1週間分の点訳文の読み合わせ校正をしている姿にお目にかかれるでしょう。木曜日の午後は、「黒一点」の私も垣間見えることでしょう。点訳について詳しい説明は、紙面の関係もあり、省きますが、以下、駄文をお読み下さい。

皆さん、ご存知の方もおられるでしょうが、点字とは、目の見えない、いわゆる視覚障害者が、目の見える晴眼者(せいがんしゃ・健全な視覚を有する人)が目で見えない文字を代えて、指で(主に人差し指と中指の腹で)紙面に印字された突起(これを点字という)に触れて読み取る(これを触読という)もので、フランスのブライユという人が作りました。私たちが点訳するものは、触読はできませんが、盲人の方が触読をマスターするのは、習練と努力を要するのではないかと思います。

日頃、我々は、何とも思わないで日本語を読んでいます。弁慶読み(べんけいながなきたを・・・)のように、どこで区切って読むかによって意味が違ってくることが、日本語なのです。英語の文章は、一つ一つ単語が区切られています。そこで、点字で言葉を表す場合には、言葉を区切らなければ、正しく意味が伝わりません。点訳では、言葉の区切り方(これを分かち書きと言います)が重要なことなのです。次に言葉、単語の読み方も大切です。目で見ても、発音しなくても、漢字では意味がわかります。しかし、点字の場合、必ず発音を点字で表さなければなりません。しかも、正しく、そして適切な「読み」でなければなりません。例えば、明るい日「明日」と書いてどう読みますか?「アシタ」、「アス」、「ミョウジツ」、「ミョウニチ」というように、その言葉がどのような状況で使われているか、前後のかかわりから、正しく判断する必要があります。また、辞書にある正しい読みでない、誤った読み方を多くの方が何の不思議とも思わず、平気で使っています。例を挙げたら、きりがありません。逆に言い換えると、それほど日本語は曖昧な言葉なのでしょう。私にとって、点訳の毎日は、言い換えるなら、日に何回も重たい「広辞苑」を手にとり、「ブリタニカ国際大百科事典」と首っ引きの毎日と言えるでしょう。「六十の手習い」でなく、「七十越してのお勉強」はまさに大変であります。ああ、しんど!

◆◆◆学童保育指導員おもちゃ作り研修会に参加して◆◆◆

奥 正昭(SA14期)
2月18日・20日の2日間、大手前・国民会館12階ホールにて、府下各市町村(大阪市・堺市・高槻市以外)に呼びかけて受講希望指導員に、1回80名合計160名参加、おもちゃ

作り研修会が開かれた。受講指導員には受付で、教材として2種類のおもちゃの材料、「手づくり伝承おもちゃ読本基礎篇」を渡す。読本には10種類のおもちゃの作り方が掲載してあり、その中から、ストロートンボ・ガリガリトンボを指導した。

18日・・・吹田SAより丹羽会長、平井、奥が参加、担当は府下南部の泉佐野市6名の受講指導員で、午前10時、まず最初はストロートンボ、堺SA・岡崎さんの作り方説明で研修会開始。“おもちゃ読本”に沿って作り、説明で解らないところは、各テーブル2人のSAがお手伝いして、最後に羽根を自分の好きなようにマーカーで色を塗って完成、立ち上がって飛ばした、よく飛ぶのでびっくりしておられた。(所要時間・30分)

次に、河内長野SA・小柴さんの説明でガリガリトンボを作る。1部と同じ要領で指導した。要点として、針金はできるだけ強く巻くこと、ピンは怪我の原因になるのでしっかり数を点検する事を指導、最後に回し方の要領を指導して第一日目終了。(所要時間30分)

20日・・・吹田SAより丹羽会長・小北・奥が参加。担当は吹田市2名・茨木市3名・枚方市1名の6名の予定であったが、吹田市2名が無断欠席で、各市町村の対応の差によるものとおもわれるが残念だった。

作り方は1日目と同じメンバー、同じ要領で指導した。2日間の参加者の感想として、簡単手軽にできるので、学校で早速子ども達に指導したいとのことでした。

2日間を通じて、吹田市の参加は0であった。

最後に、他のおもちゃの作り方を希望の場合は、各地区SAに連絡すれば、日程を調整し伺う旨話し、2日間の日程を無事終えることができた。

尚、連絡があれば、おもちゃ作りのご協力の程よろしくお願い致します。

●●●SA7期(国際交流)の思い出と活動について●●●

村山 弘(SA7期)

SA7期というと平成6年度になるので、丁度10年前になるが今は2月なので正確には9年前である。国際交流の講座の阪本秀雄先生が芦屋に住んでおられ、阪神淡路大震災に遭遇されたことを思い出す。家は全壊したが火災をまぬかれたので、講義の資料は幸いにも持ち出すことができたと言っておられた。(講座全員が心ばかりの支援を差し上げたのを思い出した。)阪本先生の幅広い学識とユーモア溢れる講義を通して、21世紀に向かうこれからの国際交流で何をなすべきか、如何に貢献すべきか等必要な基礎知識、現在と今後の活動の原点となる勉学の視点について、学ぶことができた。私たちそれぞれが何を実践して行ったか、少しの例を書き出してみたい。

中国吉林農業大学の客員教授に聘任されて年数回講義に出かけたり、中国からの留学生の保証人になったり、日本から留学生を派遣したり日中両国の友好に努力されている細見さん。鍛冶技術者でその技術を提供しようと東京の日本シルバーボランティアーズ(JSV)を通じて中国でその技術を提供している山中さん。1982年(S57)より大阪YWCA里親運動に参加し、留学生の里親として、ハンガリー、エジプト、台湾、中国の留学生たちと交流を続けてきた鈴木さん。使用済み切手を日本キリスト教海外医療教会へ贈り(年1~2回)東南アジア医療資金に協力したり、古着を日本医療センターへ送り、タイ、ペルー等の国々へ寄贈している。今後は親戚、知人へも呼びかけてもっと大きく応援したいと思っている川島さん。どうも他人様のことばかり書いてはいけません。少しは自分のことも記してみましょ。1997年(H9)大阪の港で、SAIL OSAKA '97という催しが行われた。8泊8日香港、沖縄、鹿児島、大阪を結ぶ国際帆船レースだった。大型帆船ではロシア、ポーランド、オランダ、スペイン、オマーン、アルゼンチン、コロンビア、メキシコ、インドネシア、香港、日本等。小型帆船(ヨット)では、デンマーク、イギリス、フランス、イタリア、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、日本等の国際帆船レースだった。小生は

小型帆船の部門のお世話をするボランティアのまとめ役として準備をいれると約3ヶ月間、大阪の海遊館の先に通った。1995年(H7)8月吹田市の姉妹都市であるオーストラリアのバンクスタウンへ吹田混声合唱団のメンバーとして国際交流に行き、現地の合唱団と合唱をともにし、交流を暖めた。その後シドニーのオペラハウスの大ホールでオーストラリアの高校生の楽団、日本の合唱団等と奏楽で共演した。2002年(H14)6月には、私たちの合唱団はウィーンへ行き、楽友会館ホール(小澤征爾さんがニューイヤーコンサートでウィーンフィルを指揮したホール)で国際合唱祭に参加した。地元のウィーン少年合唱団はもとよりユーゴスラビア、南ア連邦、中国上海の合唱団と合唱をともにし、単独及び共同演奏をして国際交流を深めた。

話は変わりますが、私は真向法体操を毎日行っています。約20年間続けています。この体操は四つの基本体操からなるもので複雑なものではありません。本部は東京にあり文部科学省に認定された社団法人真向法協会です。私は阪神真向法協会に属していて現在七段・教士です。月一回尼崎で例会を開いて、指導者のメンバーとして活動しています。最近通信講座でも募集していますが、その中で「肩こり、五十肩が軽くなった」「体質が改善され、頭痛から開放された」「足腰が丈夫になり歩くのが楽しい」「手軽な3分間体操で老化にブレーキ」「手足や腰が冷えなくなった」等モニターの声がでています。

SA吹田でも皆さん色々のご活躍されていますが、もし真向法にご興味があれば、お話し合いの上、健康法(真向法)の会として立ち上げたいと思っています。全国大会の席上、川崎市の支部のメンバーは最近介護の一助として真向法を行政が注目しているとの話を出していました。全国大会(全国および、遠くはニューヨーク、ロスから約700~800名参加)は毎年全国各地を持ち回りで開催しています。去年は長野県で、今年は福井県の鯖江市の予定です。来年は阪神淡路大震災10周年になり、神戸市で開催予定です。私の所属している阪神協会はボランティアとして忙しくなるでしょう。

SA吹田 活動予定 (3月~5月)

- 3月1日(月) SA16期生 活動報告会(地域別・吹田13:00~13:20 予定)
- 3月4日(木) SA連協幹事会 午後 歌体操代表委員会合【II】
- 3月8日(月) SA16期生 活動報告会(専攻別)
- 3月15日(月) 吹田16期生 グループ結成式 13:00
- 3月17日(水) 弘済院小学校 おもちゃ作り 10時~11時30分
- 5月5日(水・祝日) 吹田市こども野外カーニバル 10時~15時
千里北公園・青少年野外センター

編集後記

梅のつぼみもふくらみ始め、4月の陽気の日の後にはまた寒い日がやって来ても春はすぐ近くまできている感じがいたします。今月号は6期・7期の方に特別にお願いいたしましたところ、環境問題や国際交流活動に取り組まれている貴重な報告を頂きました。次回は8期・9期・10期の方の投稿をお願い致します。また点訳の体験談も頂きました。皆様の色々な体験談等も大歓迎です。原稿を事務局まで提出お願い致します。